

【前期】

- 伊藤東涯
- 龍草蘆
- 浅野醒堂
- 藤澤南岳
- 阪正臣
- 坪内逍遙
- 千葉胤明
- 比田井天来
- 野口雨情
- 川谷尚亭
- 鈴木翠軒
- 田中真洲
- 桑原翠邦
- 藤田蒼碩
- 藤田東谷
- 坪井正庵
- 堀田翠堂
- 浅野啓道
- 小松茂美
- 稻垣菘圃
- 村上翠亭
- 桑原呂翁
- 山川昌泉
- 平田蘭石
- 大石三世子
- 太田海軒

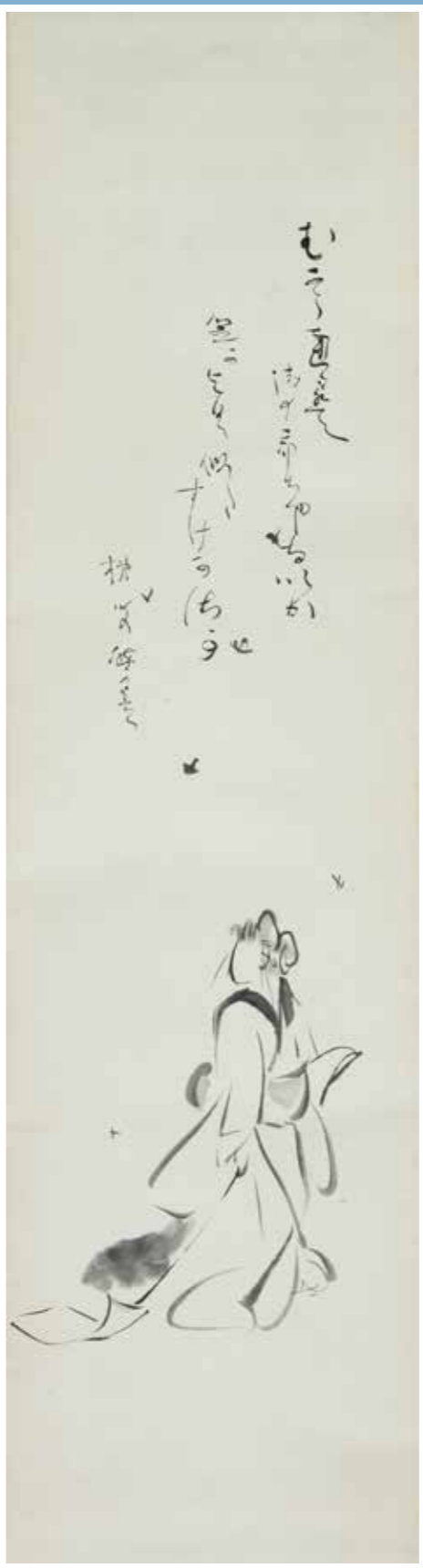
【表の作品】

坪内逍遙(一八五九～一九三五)  
 「むかう通るは清十郎ぢやないか笠がよく似たすげがさか」  
 劇作家でもあった坪内逍遙は舞踊劇「お夏狂乱」を制作しています。  
 発狂し清十郎を探し求めるお夏の姿も逍遙によって描かれています。



**春日井市道風記念館**  
 〒四八六〇九三二 愛知県春日井市松河戸町五九一三  
 電話 〇五六八二一六二  
<https://www.city.kasugai.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html>

● JR名古屋駅からJR中央本線勝川駅下車 タクシ10分 徒歩30分  
 ● 名二環状回りは松河戸ICから3分 内回りには小幡ICから5分  
 ● JR中央本線大曾根駅からゆとりーラインで川村駅下車 徒歩10分  
 ● JR中央本線勝川駅または春日井駅からゆとりーラインで川村駅下車 徒歩10分  
 ● JR勝川駅発車時刻 9時40分・12時00分・14時15分  
 ● JR春日井駅南口発車時刻 8時49分(土日・祝休日運休)・11時18分・13時33分・15時53分



坪内逍遙

道風記念館 館蔵品展

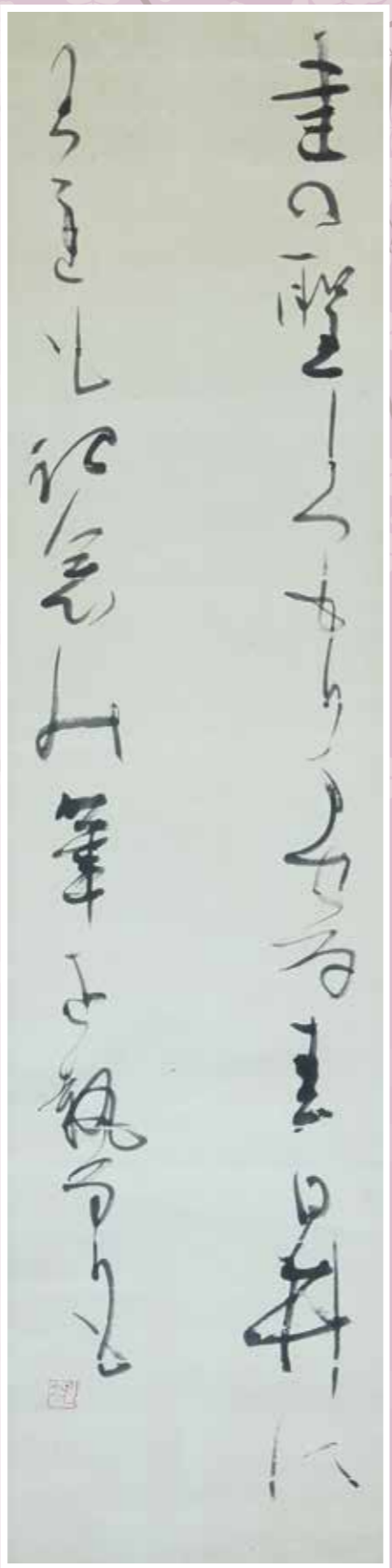
# 書に想いをのせる

令和五年十二月十五日(金)～令和六年四月二十一日(日)

【前期】令和五年十二月十五日(金)～令和六年二月十二日(月)  
 【後期】令和六年二月二十七日(火)～四月二十一日(日)

開館時間 午前九時～午後四時半 観覧料 一般一〇〇円、高校生・大学生五〇円、中学生以下無料  
 休館日 月曜日(祝休日の場合は翌日)、年末年始(十二月二十九日～一月三日)、令和六年二月十三日(火)～二月二十六日(月) ※工事のため臨時休館

展示品解説 十二月十六日(土)・二月二十一日(日)・三月十六日(土)・四月十四日(日) 各日 午前十時半～十一時、午後二時～二時半  
 学芸員が初心者向けに展示品の解説をします。事前予約は不要です。お気軽にお越しください。



田中塊堂

道風記念館 館蔵品展

# 書に想いをのせる

伝えたい想いがある。だから筆をとる。

【表の作品】

田中塊堂(一八九六～一九七六)  
 「書の聖しづもりませる春日井にわれも記念の筆を執るかも」  
 春日井には小野道風の誕生伝説があり、毎年道風をまつる道風祭が催行されます。  
 この作品は道風祭に寄せて田中塊堂が歌を詠み、したためたものです。

【後期】

- 荻生徂徠
- 本居大平
- 日下部鳴鶴
- 永坂石埭
- 伊勢門水
- 小野鷲堂
- 加藤義清
- 清水比庵
- 荻原井泉水
- 佐分移山
- 林楽園
- 伊藤東海
- 石橋犀水
- 田中塊堂
- 井上桂園
- 岡本白濤
- 久野麦銭
- 小島碧雲
- 日比野光鳳
- 黒野清宇
- 高木大宇
- 野崎幽谷
- 高田香坡
- 岡本苔泉
- 近藤浩乎
- 松本大鷲

**春日井市道風記念館**  
 〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町5丁目9番地3  
 TEL 0568-82-6110  
<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html>

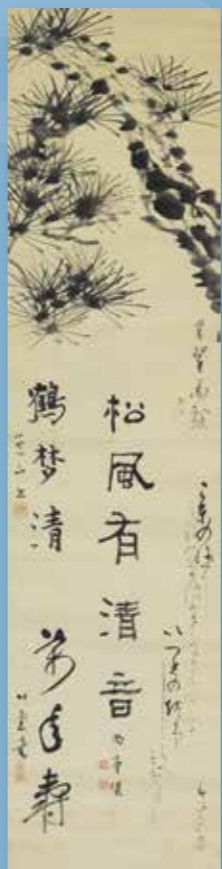
書作品には作者の強い思いが込められています。書かれる内容は、作者自身の想いを語る言葉であったり、作者が深く共感した詩人・歌人の詩歌であったりします。今回の展覧会「書に想いをのせる」では、道風記念館所蔵の近現代書作品のなかでも特に作者の思いが鑑賞者の心に鮮やかに伝わってくる作品を選んでご紹介いたします。

御歌所寄人、阪正臣（一八五五～一九三一）が書いた明治天皇の御歌。小説家であり劇作家であった坪内逍遙（一八五九～一九三五）が描いた「お夏狂乱」の一場面。商人で狂言を能くした文人、伊勢門水（一八五九～一九三二）が描いた狂言「末広がり」の一場面。川谷尚亭（一八八六～一九三三）ら五人の書家による寄合書。堀田翠堂（一九一五～二〇〇五）が書家としての想いを込めた「書者心画也」。村上翠亭（一九二八～二〇一八）が、自らの戦争体験により強い想いを込めて書いた萩原朔太郎の詩「軍隊」。高木大宇（一九三〇～二〇一三）が祈りを込めて描いた仏画と般若心経。富士の書家とよばれた野崎幽谷（一九三三～一九九六）が情熱を込めて書き上げた「富士山」。

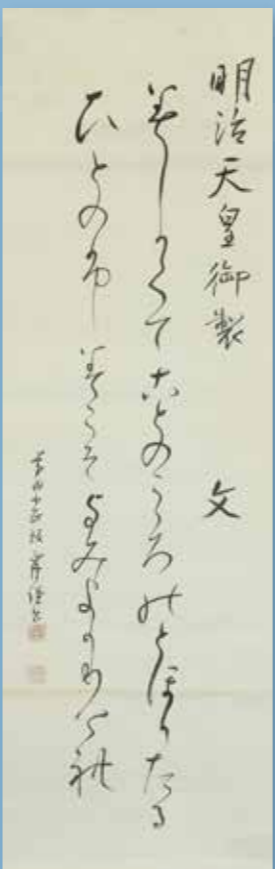
書作品にのせた作者の想いをうけとってください。



1 野口雨情



2 川谷尚亭



3 阪正臣



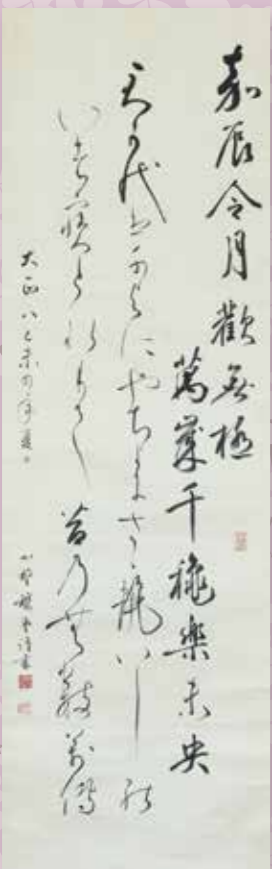
4 伊勢門水



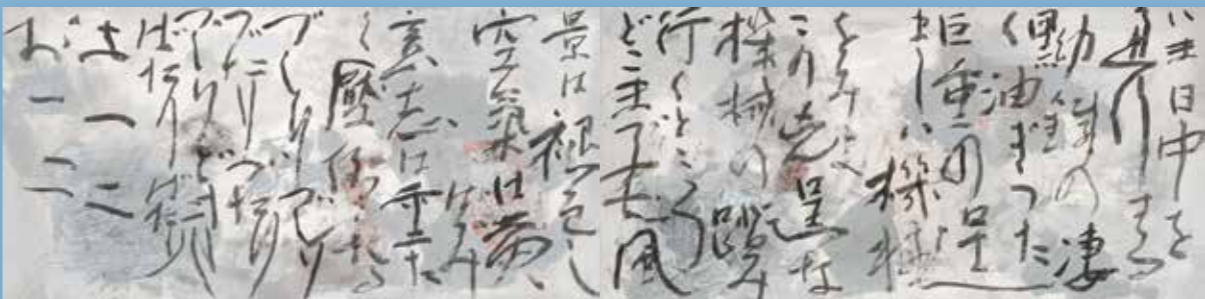
5 萩生徂徠



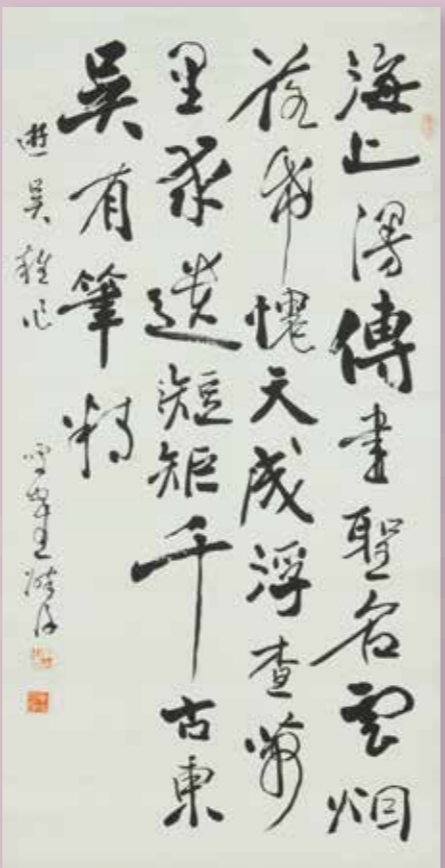
6 石橋犀水



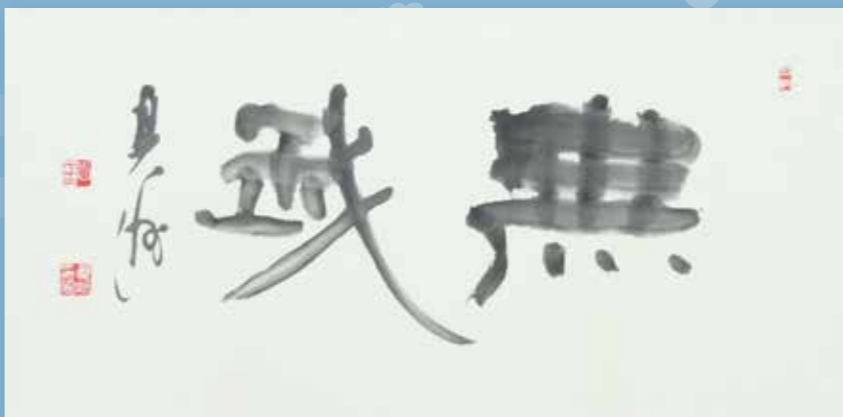
7 小野鷺堂



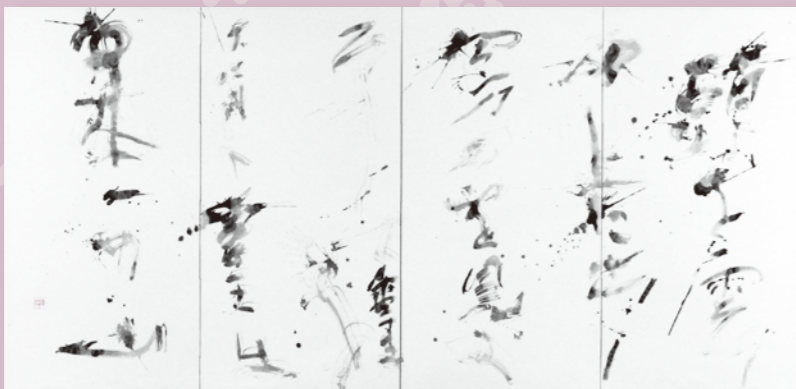
8 堀田翠堂



9 村上翠亭



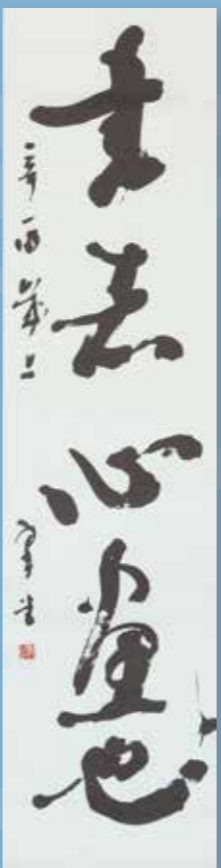
10 野中真洲



11 田中真洲



12 堀田翠堂



13 村上翠亭

- 13 村上翠亭
- 12 堀田翠堂
- 11 田中真洲
- 10 野中真洲
- 9 村上翠亭
- 8 堀田翠堂
- 7 小野鷺堂
- 6 石橋犀水
- 5 萩生徂徠
- 4 伊勢門水

【後期】

令和六年二月二十七日(火)～四月二十一日(日)

【前期】

令和五年十二月十五日(金)～令和六年二月十二日(月)